

国際日本学がめざすもの..
その多面性と可能性



多文化・多言語共生 社会における 日本語教育研究

身近にいる外国人の知り合いと接する中で、「彼らは一体、どんな風に日本語を学んできたのだろう」と考えたことはありますか？「すごく上手だなあ」と感心する日本語、「あれ、なんか変だな」と感じる日本語など、様々な日本語が私たちの周りを飛び交い、日本語自体も多様化している現在、ネイティブ・スピーカーとしての日本人にどのような役割が求められているのかを、外国人が日本語を学ぶ過程を探りながら、考えてみたいと思います。



前田直子氏

(学習院大学・教授)

専門は、現代日本語文法。日本語を外国人に教える際に、どのように文法を教えることができるか、という観点から現代日本語の文法を研究している。著書に『敬語を中心とした対人関係の表現—待遇表現—』(スリーエーネットワーク 2003)、『「ように」の意味・用法』(笠間書院 2006)、『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究』(くろしお出版 2009)、『図解 日本語の語彙』三省堂、2011)、『世界の日本語研究と日本語教育 ビジネス日本語教育の展開と課題』(ココ出版、2015)、など。

11月30日(金)

会場：東京外国語大学
研究講義棟 101 教室
時間：17:45～19:15
一般公開／入場無料／予約不要